

お客様各位

キヤノンITソリューションズ株式会社

# 全銀TCP通信プログラム UNIX版 バージョン 1.20 リビジョン06 変更内容について

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。  
さて、当社製品「全銀TCP通信プログラム UNIX版」  
(Ver. 1.20-05 → Ver. 1.20-06)において、以下のような改修を行いましたのでお知らせいたします。

敬具

## 概要

### [改修項目]

以下の問題点を修正しました。

#### [ファイル転送機能関連]

- ・ 伝送完了ポイントを“FILE”に設定しているにもかかわらず、ファイル制御電文（終了回答電文）の伝送完了後にエラーが発生すると、最終的なステータスが異常終了になる。  
※ファイル転送イベントは、正常終了イベントが実行される。  
※サイクル番号は、カウントアップされない。
- ・ 同一ステーションで、ファイル転送やリレー、伝送ファイルの登録が同時に行われると、伝送ファイルの作成エラーやファイルオープンエラーになることがある。
- ・ 2次局の場合、一時点で開設されるファイル転送セッションが、開設可能セッション数を超えることがある。
- ・ 連続してファイル転送が要求されると、ソケットがクローズされず、ファイル転送セッションが使用できなくなることがある。

#### [運用管理コマンド関連]

- ・ cycle コマンドの-f オプションに 16 桁のファイル ID を指定して実行すると、コアダンプを出力して強制終了される。
- ・ cycle コマンドでサイクル番号を出力すると、-s オプション、-f オプションともに“all”を指定しているにもかかわらず、一部の情報が出力されないことがある。

#### [ZGTCP ユーティリティ関連]

- ・ uncatalog コマンドの-s オプションに 16 桁のステーション ID を指定して実行すると、ステーション ID とファイル ID の組み合わせ不正のエラーになる。

- inquiry コマンドでリレー履歴レコードが正しく出力されない。
  - リレー元のリレー履歴レコードを出力すると、リレー先のセクション番号が出力されるべきところにリレー元のセクション番号が出力される。
  - リレー先のリレー履歴レコードを出力すると、リレー先のセクション番号が出力されるべきところに何も出力されず、リレー元のセクション番号が出力されるべきところにリレー先のセクション番号が出力される。
- 以下のコマンドの-f オプションに all を指定して実行されると、ファイル ID を 16 桁で指定しているファイル情報の制御ファイルは削除するが、伝送ファイルは削除しない。
  - remove コマンド
  - erase コマンド

#### [マニュアル関連]

- ユーザーズマニュアルの schedule コマンドの説明に誤りがある。

誤	正
-l F	-l T

以 上